

学校教育目標 自ら考え 豊かにかかわり合う 未来へつながる子どもの育成

「もう少しいたい」と思うほど感動した。(大原美術館で)

11月20日 校外学習 語らい座 大原本邸・大原美術館 6年生

6年生は、総合的な学習の時間に、戦争と平和について学習を続けています。戦争中、大原美術館の作品が日近地区の民家の土蔵に疎開していた事実を知り、絵画を疎開させることや当時の大原美術館の様子、また、その創設者大原孫三郎について調べました。そして、大原家の住まいであった語らい座大原本邸と大原美術館を見学しました。

大原本邸の山下館長さんから、大原家の様々な取組や考え方を紹介していただきました。また、大原家の町衆精神は、SDGsにつながるもの(例えば大原美術館の創設は、4「質の高い教育をみんなに」)と教えてくださいました。

大原美術館では、絵画・彫刻・染色など様々な作品を日近地区に疎開したものはどれだろうと思いを巡らせながら鑑賞しました。今回の校外学習にも、地域の萱野さん、太田さん、三田さんが同行してくださり、子どもたちと共に学んでくださいました。

孫三郎が行ったことについて、1番心に残っているのが「防貧」。それまでは、「救貧」で持続可能ではないことから、社会のために研究所をたてるなどして「防貧」を行ったこと「救貧」から「防貧」に変わったことは、孫三郎が持続可能な方法を考えたからだと思う。大原家の行ったこと、言葉から、自分もSDGsでできることを考えて行きたい。未来のために動いていきたい。

「ヴェニスの子」という作品に目がとまった。彫刻で、とても細かいところまでキッチリできていて、少し不気味な感じの作品だったけど、心の中に何かをささやかれているような不思議な感覚になった。

大原孫三郎さんが、SDGsに関わりながら生きてきた、そして、自分の財産をけずってまで人につくそうと思う気持ちが伝わってきた。

受胎告知という作品をいすにすわってみた。じっくりみていると本当に素晴らしい絵だと感じた。写真だとどれほどすごかわからなかった。戦争中でも絵を大事に保管して、よく汚さず保管できたなあと思った。



中学生のみなさん、ありがとう。

11月27日 HGT (絵本の読み聞かせ)

校内読書週間の行事として、小中の図書委員が協力して小中合同の絵本の読み聞かせタイムを行いました。

どの班も中学生が選んだ絵本を食い入るように見つめながらお話を聞く子どもたちの姿が見られました。図書委員会のみなさん、ありがとう。



**簡単そうだと思っていたけれど、以外にむずかしかった。(稲刈り)**  
**昔の人は道具が開発できるくらい、ちえがあったんだ。(脱穀)**

10月17日・11月18日 総合的な学習の時間「すごいぞ米パワー」5年生

6月に田植えをした、稲が収穫のときを迎えました。まずは、稲刈り。鎌を持って恐る恐る稲株に刃を当てます。地域のみなさんに教えてもらい、見守られながら、安全に体験できました。今ではあまり見られなくなったはざかけも行いました。わらで稲を束にするのが、難しかったようです。

また、コンバインやバインダーの機械刈りも見学しました。

約1ヶ月後、すっかり乾いた稲を脱穀しました。こきはし・千歯こき・足踏み脱穀機・唐箕と昔の道具を福谷農家博物館から城木館長さんに持って来ていただき、説明を受け、実際に使わせていただきました。この後も、コンバインや乾燥機などの機械も見せていただきました。



手作業でかかっていくと大変だけどやりがいがある。バインダーは鎌より楽にできる。コンバインは、鎌、バインダーより楽、わら切り、脱穀と4つのことをしてくれる。

コンバインでかると一分半でぼくたちの借りてる田んぼの稲をすべてかれるけど、人がかると大体1時間以上かかった。機械と人の手の違いが大きすぎる。

苦勞して時間をかけて作ってくれているお米を無だにしないようにこれからも気をつけようと思った。

**「認知症はまわりの人の助けがあれば、よくなります。」**

10月～12月 総合的な学習の時間 だれでも安心してくらせるまちづくり 4年生

高齢者福祉について学習している4年生。

10月28日、憩いの丘の職員の方から車いすの乗り方、押し方などを教えていただき、乗車体験をしました。

11月6日には、岡山市北区北地域包括支援センター高松分室から宇佐美さん、木梨さん、岡山市社会福祉協議会北区北事務所から八木さんにきていただき、蛍明学区の高齢化の現状や蛍明学区のサロンについて教えていただきました。

11月14日は、岡山市ふれあい介護予防センター北事務所の西坂さん、濱内さんからフレイルについて、また、そのチェックなどを体験を交えて学習しました。

11月6日と14日は、保護者のみなさん、地域の方々も参加してくださいました。

12月11日には、学校薬剤師の北村さんに薬剤師の仕事や認知症サポーター講座として、認知症について詳しく教えていただきました。



段差をおすとき、意外と力が必要だった。どれくらいのスピードがいいかむずかしかった。

車いすに人が乗る前に、声かけをするお手伝いができそう。

高齢者は大変なことがわかった。

フレイルは、早めに気づき、トレーニングなどでじょじょに回復することができる。